

坂正庄　ばんじょう　歌人、書家。安政（年）1月、生れ。11月尾張國生れ、昭和

六年八月、一十六日歿（八卷一九三）。字政介、幼名政之助。號妙高丈

六、大江の正庄、大江正庄、木嶽弟秀、桃坪、縱の舍、縱叟、縱屋、

茅田、茅田小民、茅田正庄、茅田老人、茅田處士、茅田蛭居、觀石、

阪政庄、阪正庄等。權田直助、高崎正風、神官、新聞記者を経て

明治二十年宮内省御歌所に奉職、寄人、生事と號する。一十八年華族

女學校教授。書道の一脉を承り、殊の高名書の泰斗と仰がれた。

著書『祝詞草比麻那覽』全二冊（上巻・明治十七年七月廿日、下巻・

十八年七月十九日平田龍雄出版）、『詠譯草比神社詔讐集』（柴崎富足

校、明治二十一年九月神風舎翻版）、高崎正風口授『天長節歌解』（華

詔、明治二十四年十一月、十九日川平七刊）、『筆のゆきひら』全一

冊（關根止道五編、上・明治二十六年七月、十一月、下・十二月、二千

五百大倉書店）、『新體詩歌集』（外山正秋香合著、明治二十八年九月

二十九日大日本圖書株式會社）、文集『春光』（合著・好文會編、明

治二十四年五月二十日明治書院）、『船喜堂太白と佛教』（合著・法

藏翁編輯部纂、大正二年五月十九日京都・法藏館）、文集『彩雲』（合

著・好文會同人、大正五年一月、十九日精華（萬葉書房）、高崎正風著『大

）かね集』全二冊（書、大正十五年十一月十五日京都・一德會、愛知・中央歌道（會））、『二船集』（昭和）年七月十九日（刊）、明治大

全五冊（昭和七年八月、十九日阪庄（萬葉房））、『被屋全集』

文獻、外山止道著『粗集稿』（昭和）二年十一月、一千五百大阪・

和樂路溝（）、藤井（）社著『國城正吉翁』（昭和八年八月十四日京都・美

術白報社出版部（）等。